

Title	日本型技術経営システムのダイナミズムの解明：日豪のインスティテューションの比較実証分析(<ホットイシュー>日本型技術経営システムのダイナミズムの解明(2))
Author(s)	田中，瑛士；渡辺，千仞
Citation	年次学術大会講演要旨集，19：258-261
Issue Date	2004-10-15
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/7057
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	一般論文

○田中瑛士，渡辺千仞（東工大社会理工学）

1. 研究背景

社会は工業化社会から情報化社会へと移行した。その中で、情報技術（IT）の革新およびその活用法が競争力の要になっている。

日本は工業化社会の中ではハイテクミラクルにより成功したにもかかわらず、後における情報化社会において、そのコアであるITの革新・活用においてアメリカ等から大きく遅れをとった。

この原因としては、社会経済への浸透過程における製造技術とITとの性格形成過程に相違があると考えられる。工業化社会においては、開発者による供給時点に決定されたのに対し、ITは社会経済全体が利用過程に新たな性格を付与し、それがさらに利用を拡大・高度化させるという構造をもつと考えられる。しかし、一方でそのメカニズムは不明である。よって、

- ① 1980年代までの製造技術をコアとする工業化社会と1990年代以降のITをコアとする情報化社会それぞれにおける社会体質の柔軟性発揮状況の比較検討
- ② 社会経済体質の柔軟性とITの革新およびその効果的活用との相関分析
- ③ 製造技術とITとの性格形成過程および性格形成主体の比較抽出
- ④ 社会経済との相互作用を通じたITの性格形成メカニズムの解明

が必要と考えられる。

そんな中、ITに先駆的に取り組んできた社会を、さまざまな観点からの調査研究することにより、社会生活、産業経済とITとの関係は、社会毎に大きく異なることが明らかとなっている。とりわけ、それぞれの社会がどのような「ネットワーク・アビリティ」（情報ネットワークが社会生活、産業経済活動にとって不可欠のインフラとなるにしたがって動的に形作られる現実を指すと同時に、これらのあるべき情報ネットワーク社会像を構想することを意図した造語）を発展させるかは、当該社会が歩んできた産業社会の歴史的文脈に位置づけられ、他のさまざまな情報メディア（テレビ、ラジオ、電話など）との関係において理解されることが不可欠とされる。

本研究は、以上を踏まえた上で、ITの革新・活用において成功者と言われるオーストラリアと日本の、社会や経済、政治等の様々な要因（インスティテューション）の比較実証分析を目的としている。

オーストラリアは、かつて羊の背中に乗っているといわれたほど、ウール産業に頼っていた。今もその産業は大きい値を示すが、それを上回り、今のオーストラリアを支えるといっても過言ではないのが、教育の産業である。今回の選挙でも教育に対する投資が大きな争点の1つである。

その結果、大学生は、その国のインスティテューションの影響を大きく受け、また将来を担う立場であると考えられる。よって、アンケートを大学生に行うことにより、その大学生の将来のキャリアプランとICTの利用との関係から、その国のインスティテューションを裏付けることを、本研究の目的とした。

2. アンケートの内容

基本的な質問(年, 学科など)の他に, アンケートの内容は以下の通りで行った.

1) アンケート 1

(1) What kind of firm do you expect to work? (Choose *the most possible one*)

1. Large company
2. Small and Medium company
3. Venture (just started)
4. Start-up (by yourself)
- (2) What kind of job do you want to get? (Not industries, choose *the most possible one*)
1. Banker
2. Consultant
3. Designer
4. Engineer (except Computer related)
5. Journalist and Mass communication
6. Manager
7. Marketing
8. Medical stuff
9. Programmer
10. Researcher (including professor)
11. Sales person
12. System Engineer (including system consultant)
13. Other service
14. Entrepreneur
15. Public servant
16. Politician and Governor
17. Other

(3) What kind of knowledge do you think important *the most on business for you?*

1. Accounting
2. Economics
3. Finance
4. Laws
5. Linguistics

6. Marketing

7. Programming

8. Specific manufacturing

9. Research and development for a specific area

10. Soft skills (e.g. interpersonal skill, communication skill etc.)

11. Other

(4) Where do you want to work? (Choose *the most possible one*)

1. North America
2. Center and South America
3. Japan
4. China
5. India
6. Other Asian countries
7. West Europe
8. East Europe
9. UK
10. Russia
11. Australia
12. Other region

(5) How much do you *actually* use computers a week? (*Not* the time keeping a computer on)

1. Less than 1 hour
2. 1 - 3 hours
3. 3 - 5 hours
4. 5 - 10 hours
5. 10 - 20 hours
6. More than 20 hours

What technology do you *want to use?* (*Check all that apply*)

1. Web browsing
2. Email
3. Office applications
4. Programming languages
5. Photo and movie editing
6. On-line games

7. Chatting
8. Homepage building
9. Wireless web browsing
10. Data base
11. Network constructing
12. Telecommuting (On-line lecture)
13. Other

(6) What technology do you *expect to use in near future*? (*Check all that apply other than what you chose at the previous question*)

1. Web browsing
2. Email
3. Office applications
4. Programming languages
5. Photo and movie editing
6. On-line games
7. Chatting
8. Homepage building
9. Wireless web browsing
10. Data base
11. Network constructing
12. Telecommuting (On-line lecture)
13. Other

(7) What subject were you interested in the most before entered your university?

1. Chemistry
2. Foreign language
3. Economics
4. History
5. Geography
6. Literature
7. Mathematics
8. Physics
9. Social studies
10. Other

2) アンケート2の内容は以下の通りである.

Please rate from 1 to 7, from “Completely disagree” to “completely agree”, on each statement.

1. Examine every possibility (including those not existing or realized at that time) when choosing certain options.
2. Search for better opportunities even while satisfying current position.
3. Continuously check for more attractive channels while driving and listening to a favorite radio program.
4. Check all TV channels while intending to continue to watch the same program.
5. Attempt a comparative assessment before finding the ideal love partner similar to examining well-fitting clothes.
6. It's a tough work to buy a gift for a friend.
7. It's always hard to choose the best film while renting a video film.
8. It's really hard to find the most satisfactory one in purchasing clothes.
9. Ranking of movies, singers, sport players and novels is one of the most exciting hobbies.
10. It's not easy to express one's own wishes in writing a letter to a friend.
11. Insist on own wishes in deciding any issues.
12. Never satisfied with a second best choice.
13. Often picture in own mind a life totally different from the current life.

“The Maximization Scale,” Scientific American, April 2004.を参考とした.

3. アンケートの結果

このアンケートはオーストラリアにあるチャールズスタート大学ワガワガ校舎で大学生を対象に行った。ワガワガはニューサウスウェールズに属する人口約6万人の町である。ニューサウスウェールズの内陸部においては一番大きい都市である。町にはこの大学が1つと TAFE（日本の専門学校と同じようなもの）がある。

有効回答数は男性32人、女性23人である。統計的に有意とはいいがたいが、今後につながるものとしては十分と考える。主にはオーストラリア人が中心であるが、アンケートの中には男性において中国、マレーシア、インド、ベトナム、台湾、バングラディッシュに香港、女性に関してはイギリス、中国、日本、インド、台湾、カンボジアにスウェーデンと多国籍に渡り、オーストラリア人の学生とオーストラリアに留学している他国籍の学生の比較も可能とした。

平均年齢21.8歳。男女の間に差はなし。標準偏差は2.77。

所属学科は **business** (MBA 含む) , **letter & arts**, **medical** に **social science** が主である。これに関しては、幅の広い分野でアンケートを集めることができた。

興味深いデータをいくつかあげる。

55のアンケートのうち、20名が **Large company** を選択。17名が **small and medium company**, 13名が **start-up (by myself)** を選択している。残りは学校の教師や教授であった。

過半数以上がオーストラリア以外に仕事場を求めている。オーストラリア人はオーストラリアを選択する割合が大きかったが、他国籍の人は自分の国に限らず、いろいろな場所を求めている。

約30%の人が一週間に20時間以上コンピュータを使用していると言っている。そのほかの人で平均を取ったところ、8.5時間であった。

4. 結論

このデータを発端として、これからアンケートを改良し、広く展開していく。それにより、インスティテューションの国際間比較が可能であると確信する。

またオーストラリアに限らず、いろいろな国において、このアンケートは実施されたため、よりよい包括的な研究・分析に成功するものと確信している。